



# 高見 巨鬼工

明治19（1886）年～昭和21（1946）年

たかみきよきこう

高見巨鬼工（本名金一郎）は、現在の南外字大杉に父 浅治（南檜岡村長）の長男として生まれます。

11歳ころから句作をはじめ、「日本及日本人」のかわひがしへきごとう河東碧梧桐選に投句して明治41（1908）年春から連続採用され、碧梧桐門下となり、おぎわらせいせんすい荻原井泉水らと共にへきもんじゅってつ碧門十哲の一人に数えられました。

いしいろげつ石井露月にも師事し、同郷の堀井白果仙（本名・徳五郎）と地元「雷会」を設立した他、大曲の「白虹」俳句欄の選者をつとめ、神宮寺（大仙市神岡）の富樫小兎らと回り周辺地区の句会を盛り上げるなど、地域の俳句振興にも力を注ぎました。

また、父の後を受けて、昭和7（1932）年から昭和15（1940）年まで南檜岡村長を務めました。

昭和21（1946）年没。享年61歳。